

名古屋情報専門学校

**名古屋情報専門学校
学校自己評価報告書
(平成29年度)**

平成30年7月

学校法人名古屋学園
名古屋情報専門学校

名古屋情報専門学校

名古屋情報専門学校
学校自己評価委員会

委員長	青 利一(校長)
副委員長	伊藤 和明(教頭)
	橋本 和弘(事務長)
委員	大西 岳司(教諭)
	中西 達也(教諭)
	野々山 史朗(教諭)

名古屋情報専門学校

目次(点検中項目一覧)

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

- 【1 - 1】理念・目的・育成人材像は定められているか……………P. 5
- 【1 - 2】学校の特色はなにか……………P. 5
- 【1 - 3】学校の将来構想を抱いているか……………P. 5

基準2 学校運営

- 【2 - 4】運営方針は定められているか……………P. 7
- 【2 - 5】事業計画は定められているか……………P. 7
- 【2 - 6】運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか……………P. 7
- 【2 - 7】人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか……………P. 7
- 【2 - 8】意思決定システムは確立されているか……………P. 8
- 【2 - 9】情報システム化等による業務の効率化が図られているか……………P. 8

基準3 教育活動

- 【3 - 10】各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズ
に向けて正しく方向付けられているか……………P. 9
- 【3 - 11】各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界
の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能
なレベルとして、明確に定められている ……………P. 9
- 【3 - 12】カリキュラムは体系的に編成されているか ……………P. 9
- 【3 - 13】学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか ……………P. 9
- 【3 - 14】授業評価の実施・評価体制はあるか ……………P. 10
- 【3 - 15】育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか……………P. 10
- 【3 - 16】成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ……………P. 10
- 【3 - 17】資格取得の指導体制はあるか ……………P. 10

基準4 教育成果

- 【4 - 18】就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか…P. 11
- 【4 - 19】資格取得率の向上が図られているか ……………P. 11
- 【4 - 20】退学率の低減が図られているか ……………P. 11
- 【4 - 21】卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ……………P. 11

基準5 学生支援

- 【5 - 22】就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか……………P. 13

名古屋情報専門学校

- 【5 - 23】学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか……………P. 13
- 【5 - 24】学生の経済的側面において支援体制は整備され、有効に機能しているか……P. 13
- 【5 - 25】学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか……………P. 13
- 【5 - 26】課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか……………P. 14
- 【5 - 27】学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか……………P. 14
- 【5 - 28】保護者と適切に連携しているか……………P. 14
- 【5 - 29】卒業生への支援体制はあるか……………P. 14

基準6 教育環境

- 【6 - 30】施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか……………P. 15
- 【6 - 31】学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか……………P. 15
- 【6 - 32】防災に対する体制は整備されているか……………P. 15

基準7 学生の募集と受け入れ

- 【7 - 33】学生募集活動は、適正に行われているか……………P. 16
- 【7 - 34】学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか……………P. 16
- 【7 - 35】入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか……………P. 16
- 【7 - 36】学納金は妥当なものとなっているか……………P. 16

基準8 財務

- 【8 - 37】中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか……………P. 17
- 【8 - 38】予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか……………P. 17
- 【8 - 39】財務について会計監査が適正におこなわれているか……………P. 17
- 【8 - 40】財務情報公開の体制整備はできているか……………P. 17

基準9 法令等の遵守

- 【9 - 41】法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか……………P. 18
- 【9 - 42】個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか……………P. 18
- 【9 - 43】自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか……………P. 18
- 【9 - 44】自己点検・自己評価結果を公開しているか……………P. 18

基準10 社会貢献

- 【10 - 45】学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか……………P. 19
- 【10 - 46】学生のボランティア活動を奨励、支援しているか……………P. 19

名古屋情報専門学校

基準1 教育理念・目的・育成人材等

点検中項目【1-1】 理念・目的・育成人材像は定められているか

平成29年度、創立40年を迎え、以下のとおり一貫して学校の理念を明確にしている。

1. 本学園の建学の精神「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」
2. 学生一人ひとりのニーズを満足させるとともに、クオリティーの高い技術者を育成する。
3. 常に最終教育機関に値する使命と責任を自覚し、周囲から愛される人、信頼される人、尊敬される人としての素質と、気風を培うため、健全中正な社会観、人生観を保持する人間教育を実施する。

以上の理念は全教職員および全学生に周知しており、学内外に向けてもメッセージを発信している。

点検中項目【1-2】 学校の特色はなにか

担任制によるきめ細やかな指導を行っている。専任教員が多く、講師陣は各教科、その道の第一線で活躍するプロの講師が指導し、充実した教育体制を整えている。

点検中項目【1-3】 学校の将来構想を抱いているか

学科編成・新設学科設置計画は、時代のニーズにあった分野や教育内容の中・短期にわたり研究し、それに沿った施設設備等の充実計画を立て、学校の理念や教育目標の実現を目指している。

名古屋情報専門学校

基準2 学校運営

点検中項目【2-4】 運営方針は定められているか

各年度において、理事長から学園の運営方針が発表され、全教職員に周知されている。それに伴って本校の年度の運営方針が定まり、各部署で具体化されている。

通常業務においては、学校組織図・職務分掌表によって遂行され、職員会議をはじめ就職・教科など各種会議において運営方針に沿った各業務や教育活動の確認が行われるとともに、業務内容の見直しや検討もなされ、円滑な学校運営が行われている。

点検中項目【2-5】 事業計画は定められているか

年度毎に施設充実計画・事業計画を策定している。施設充実計画は前年度1月末までに計画し、理事長、理事会、校長の承認を得て、年度当初の職員会議において教職員に発表周知されている。執行状況は各部署・担当から管理監督者に随時報告があり、完了後、報告書にて提出される。

点検中項目【2-6】 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

運営組織は、学校組織図・職務分掌表において明確に示されている。教務・指導・校務・事務の各部署はそれぞれの業務を遂行し、かつ相互間で連携し、機能している。

「理事会」「評議会」は学校法人運営について定めた「寄付行為」により、定期的開催されている。

以上のような組織運営体制は、効率的であると判断できる。また、重要案件については、相当部署において「相談事項」として書類を作成し、理事長決済後、保管している。

点検中項目【2-7】 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

教職員採用については、中長期計画を立て、退職者の後継者となる若手の採用と育成を予定している。人事考課については、教育委員会の方法を基準として育成型の評価を行い、管理職による定期的な授業見学や助言・指導を行っている。賃金については、「給与規定」に基づいて支給し、年齢と勤務年数、役職によって賃金テーブルが規定されている。

点検中項目【2-8】 意思決定システムは確立されているか

組織図・職務分掌によって業務内容・範囲の基本が示されており、各事案の立案や報告は主管部署の責任において、定められたフォーマットの「相談書」「報告書」として文書化される。それらは、校長・理事長の承認を得て確定事項となる。また、特に重要な案件や、新規案件、大幅な変更があった事項等は、事前に校長・理事長に具申の上、「理事会」の承認の上、教職員に周知されている。

名古屋情報専門学校

点検中項目【2-9】 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

基幹システムには、教務管理システム・学校経理システム・給与会計システムの3系統があり、それぞれのネットワークはセキュリティ上の理由で物理的に仕切られている。教務管理システムは、必要に応じて汎用アプリケーションで加工可能となっているため、業務が効率的に運用できる。

名古屋情報専門学校

基準3 教育活動

点検中項目【3-10】各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

各学科の「教育目標」「カリキュラム」及び「各科目の講義概要」は毎年見直しを行うことで、業界に適した構成・内容になるようにしている。特に、専門分野の科目のみに偏ることなく一般教養的やビジネスマナー等の就職に対応した科目も組み込んでいる。また、スーパーアドバイザー（特別講師）として第一線で活躍中のプロを招き、授業の中でより実践的な学習ができるようにしている。

点検中項目【3-11】各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

各科目の「授業計画（コアシラバス）」は、授業担当者によって「各科目の講義概要」を参考に作成される。教務責任者によってその内容確認・承認を行うことで、適宜、学習内容（レベル）や学習量の軽重の調整がなされている。

また教務責任者は、定期的に学生アンケートや企業アンケートを行い、学生の意見と社会状況を把握し、「授業計画（コアシラバス）」に反映できるようにしている。

点検中項目【3-12】カリキュラムは、体系的に構成されているか

「学園建学の精神」及び「学校教育目標」をもとに、各学科とも「教育目標」を設定。教務責任者と各学科責任者は、「教育目標」をもとに科目内容の見直し等を前年度に行い、カリキュラムを決定している。

各学科のカリキュラムは、「基礎科目」「専門科目」で構成されている。特に「専門科目」は、必要に応じて科目間の連携を図ることができるよう、授業担当者と授業内容が設定されている。また、学年が上がるにつれてステップアップできるよう体系的に構成されている。

他にも、「専門科目」の学習に幅を持たせられるよう、「選択授業」を設けている。

このような体系的カリキュラムが円滑に運営できるよう、年度初めには常勤教員・非常勤講師による会議を開き、授業内容と運営についての打ち合わせを行っている。

点検中項目【3-13】学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

授業時間数は、学年別に適切な配分がされている。また、各科目ごとにシラバスが作成され、学習内容とその教育目的は明確にされている。

各学年で資格・検定取得状況を検討し、その結果をもとに、教務責任者が学年末に各科

名古屋情報専門学校

目の内容等の見直しを行っている。

点検中項目【3-14】 授業評価の実施・評価体制はあるか

教務科による授業アンケート・授業視察を行い、その結果は随時担当教員に伝達・指導するようにしている。授業担当者の授業内容改善のための工夫や努力については、定期的に行われる職員会議によって評価している。

点検中項目【3-15】 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

新規の採用においては、常勤・非常勤とも、職務経歴書の精査と面接による選考を行っている。特に面接は、教育者としての資質と自覚の評価に重きを置いている。

常勤教員は、各学科の責任者の指導のもと研修を行う体制を整えている。また、教務責任者主導による研修も随時行っている。

非常勤講師において教務責任者は非常勤講師との打ち合わせの機会を適宜持ち、学生指導についての現状を確認している。

点検中項目【3-16】 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

成績評価方法については、教務内規「採点基準」として明記され、授業担当者及び学生に周知されている。また、授業担当者に対しては年度初めの会議において、成績評価の基準が「学校教育目標」「各学科の教育目標」に沿うよう周知している。単位の認定については、学則に明記されているが他の教育機関との単位互換制度はない。

点検中項目【3-17】 資格取得の指導体制はあるか

資格取得のための学習は、関連する授業内容に反映されるよう「講義概要」に位置づけられている。また、検定試験受験希望者に対しては、検定試験担当者が申し込みから補習授業に至るまできめ細かい指導している。

教務責任者は、検定試験担当者から受験状況及びその結果の報告を受け、次年度の授業運営及び資格試験指導に反映させている。

名古屋情報専門学校

基準4 教育成果

点検中項目【4-18】就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

学校全体で就職率アップを図っている。各クラスの就職活動状況は毎月教職員間に報告しており、全教職員が状況を把握するようにし、就職指導担当教員だけではなく全員が、学生の就職指導に当たっている。特に本校では学園の教育理念である「社会から喜ばれる人材育成」を主眼においてきめ細かい指導に取り組んでいる。

点検中項目【4-19】資格取得率の向上が図られているか

検定資格には、国家試験の他、情報系の各検定があるが、どの資格も、それがなければ専門分野に就職できないというものではない。しかし、学生が、自身の知識・技能をさらに高めようとする意欲と情報技術の自信を身につけるために、各検定受験を推奨している。

検定資格試験後は、合否結果を担当者が全教職員に回覧し、受験者増・合格率向上に対する教職員の意識を高めている。

点検中項目【4-20】退学率の低減が図られているか

退学率低減については、各年度で最優先検討事項として取り上げられており、教員の意識もかなり高く様々な対策が講じられている。退学理由としては経済的理由、健康上の問題、進路変更などが理由の上位を占めている。健康上、特に精神面については、スクールカウンセラーを配置し対応している。進路変更については、もともと明確な目的を持って入学してくるのではなく、ただなんとなく進学先に情報を選ぶという学生もおり、学習意欲が継続せず退学という結果になっている。

無断欠席者、長期欠席者等には家庭との連絡を密にとり、保護者との二人三脚で退学にならないように対応している。必要な場合は家庭訪問も実施している。

点検中項目【4-21】卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

卒業生の動向を扱う組織としては校友会があるが、日常的に卒業生の動向を把握しているわけではない。現実には各担任が卒業生との連絡を密にとっており、そこから情報を得る場合が多い。在校生の社会的な活動は担任が把握しており、顕著な活躍があった場合はその都度評価し称えている。

名古屋情報専門学校

基準5 学生支援

点検中項目【5-22】就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

就職・進学指導は、就職指導担当教員とクラス担任が連携して、きめ細かく計画的に行っている。1年次は、ビジネスマナー講座、職種の研究、適正判断、エントリーシート・履歴書の作成指導などを行い、2年次は、就職活動指導、模擬面接、インターンシップの導入など、より具体的な学生支援を行うことで、確実に成果を上げられるよう努めている。

また、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラーを招き、学校と連携して、学生の就職・進学への支援を行っている。

企業訪問等による求人企業開拓も通年で実施するとともに、企業展への参加、求人情報ネットワークも活用し、学生の多様な希望職種に対応できるよう努めている。

大学3年次編入希望者には、編入試験の受験対策を丁寧に指導している。

一方、卒業者に対する中途採用試験の斡旋や、早期離職率の低減についても、常に意識して対応している。

点検中項目【5-23】学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

教務科とクラス担任が連携し、学生からの相談全般の対応にあっている。また、専門知識を持ったスクールカウンセラーが定期的に来校して、学生のカウンセリングにあっている。

また、将来への不安や進路に対する悩みを抱えている学生には、キャリアカウンセラーが、カウンセリングにあっている。

点検中項目【5-24】学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

経済的支援が必要な学生に対しては、日本学生支援機構などの公的制度を活用するほか、本校（学園）独自の奨学金制度を設けている。

また、その他の経済的支援として、提携金融機関（オリエントコーポレーション）が融資する学費サポート制度も紹介している。

点検中項目【5-25】学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

学校保健法に従い、毎年度4月に定期健康診断を実施している。診断は医療機関に委託し、診断結果は学生に伝え、日頃の健康管理を意識するよう促している。

学生からの健康上の相談や、学内での発病、事故などの際は、教職員が適切な対応を行うことができるよう、連携体制を整えている。

また、校内にAED（自動体外式除細動器）を設置していて、教職員への使用方法等の研修も実施している。

名古屋情報専門学校

点検中項目【5-26】 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

学校行事としての課外活動では、学校祭、スポーツ大会があり、学生が主体的に活動できるように学校が補助を行う。

他の活動としては、ボランティア活動があり、学校が設置されている地域の清掃活動や祭りの補助、介護施設の季節毎のイベントの補助などを行い、学校は地域や施設との連絡や補助を行い学生が活動しやすい環境を提供している。

点検中項目【5-27】 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

本校は愛知県下の近隣の学生が多いため特に学生寮は設置していないが、必要な学生には民間不動産業者を紹介し、学生・保護者のニーズに対応できるようにしている。

点検中項目【5-28】 保護者と適切に連携しているか

毎年各学年1回は保護者会を行っている。学生の学習状況、生活面や就職活動などについて必要に応じて相談会を開催し、クラス担任から報告・相談を行い保護者との連携を深められるようにしている。

また、日常的な対応として、修学状況などについて必要である場合は、クラス担任が適宜、保護者に電話や文書で連絡を取ったり、面談を行ったりしている。

点検中項目【5-29】 卒業生への支援体制はあるか

学生は卒業と同時に校友会会員となる。校友会は、会長および常任役員を卒業生が勤め、事務局を学内に置いている。主な事業は、会員相互の親睦、準会員（在校生）の就職に関する助言、慶弔に対する表意、準会員に対する褒賞などである。

また、就職に関し、卒業後も転職や再就職について相談にのり生涯支援体制をとっている

名古屋情報専門学校

基準6 教育環境

点検中項目【6-30】施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

各施設・設備の運営管理は、それぞれ管理者を定め、日常の管理にあたっている。普通教室以外には、多目的ホール、コンピュータ室、カウンセリング室、進路指導室等の特別教室があり、実習授業やクラブ活動等で有効に活用している。視聴覚機器や情報機器は、定期的に機器のメンテナンスを行うとともに、学習環境向上のための機器の新規導入や機種変更等を積極的に行っている。

また、警備会社・ビルメンテナンス会社と契約し、校舎内の防犯・安全・衛生の体制を整えている。

点検中項目【6-31】学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

インターンシップは、希望学生の能力や資質をしっかりと判断し、必要に応じて適切な指導を行った上で、企業と学校が連携しながら実施している。

点検中項目【6-32】防災に対する体制は整備されているか

消防設備点検業者により、年2回の設備点検を実施している。学生に対しては、避難場所の周知や災害発生時の対応についての指導を適宜行っている。学生への安全指導の強化、災害時の教職員の役割分担や対応等について体制を整えている。

ロッカーや棚などの設備・備品については、震災時の転倒・破損等の防止対策が必要なものがあり、早急にその対策をとるようにする。

学生の登下校時や授業中、学校行事等で起きた事故・怪我などについては、保険で対処している。インターンシップなどの学外活動については、先方と事前協議を行った上で、必要な場合は別途保険に加入している。

名古屋情報専門学校

基準7 学生の募集と受け入れ

点検中項目【7-33】 学生募集活動は適正に行われているか

学生募集活動は、学校パンフレットやHP等の募集用ツールでの広報、体験入学が主なものである。

募集用ツールの作成については、初期段階から教務責任者・各学科責任者が深く関わり、正確で適正な内容となるようにしている。最終段階では全教職員によって内容確認を行っている。

体験入学においては、通常の授業の雰囲気が伝えられるような実習体験を設定し、施設の見学などができるようにしている。

点検中項目【7-34】 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか

資格試験や就職実績などの教育成果のデータは、募集用ツールに掲載し正確に伝わるようにしている。データは主に前年度の最新の実績であり、教務責任者、就職指導担当者及び各学科責任者が、内容を確認し募集用ツールに掲載している。

点検中項目【7-35】 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

学内で組織する選考委員により、本学が定める基準に則って入学願書及び調査書の記載内容を厳正に判断し選考を行っている。

点検中項目【7-36】 学納金は妥当なものとなっているか

毎年度見直しを行っている。同種分野他校の状況も参考にしながら、学内の担当委員が慎重に検討している。そして、学納金の設定案は、学園本部で妥当かどうか審議され、最終決定されている。

名古屋情報専門学校

基準8 財務

点検中項目【8-37】 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

学校の現在の財務基盤は安定化に向かいつつあるが、より盤石とするために、中長期的計画をしっかりと立て財務基盤の更なる安定化を目指していく。具体的には、収入では学生等納付金の増額など、支出では最も比率が高い人件費をはじめ諸経費の削減などを積極的に進めていく。

点検中項目【8-38】 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

毎年度末、翌年度収入予算額を事務担当者が作成し、翌年度の施設設備充実計画を担当部署が立案し、学内・学園の審議の後、理事会での了承を経て実施している。

点検中項目【8-39】 財務について会計監査が適正におこなわれているか

毎年1回 公認会計士により、会計処理が適正に行われているか指導を受けている。
そして、学園内での組織で内部監査を行っている。

点検中項目【8-40】 財務情報公開の体制整備はできているか

私立学校法の規定に従い、財務報告(決算)として資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表の学校会計3表を作成しているが開示はしていない。

名古屋情報専門学校

基準9 法令等の遵守

点検中項目【9-41】法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

本学園では事務部が法務に関する業務を統括しており、法令遵守についての総合的な管理を行っている。また、愛知県の私学行政関係等の窓口にもなっている。

学生の個人情報保護などについては学内で慎重に対応している。また、法令遵守についての教職員の研修は、夏休みの期間などを利用し希望者に対して適宜実施している。

点検中項目【9-42】個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

学校法人名古屋学園では、学生及び入学希望者・学校資料請求者等の個人情報（プライバシー）は、尊重すべき大事なものとして認識し、個人情報取扱方針（プライバシーポリシー）を定め、細心の注意を払い管理している。個人情報は厳重な管理体制のもとで保持し、不正アクセス、紛失、破壊、改ざん及び漏えいなどを防止するため、個人情報を取り扱う教職員を限定し、取り扱い責任者を設けるなどの措置を講じている。また、これらの管理施策を浸透させるためのセミナーなどを実施し全教職員の意識向上を図っている。

パンフレット掲載等の個人情報掲載（個人・団体写真等）に関しては、学生各々の個人情報取得及び使用について、本人及び保護者に対し書面によって確認・承諾を取っている。

点検中項目【9-43】自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

自己点検・評価については、平成21年度から導入の検討が始まり、平成22年度第1回評価に着手したところである。今回の評価により明らかとなった改善すべき事項については、実現可能な事項から随時改善に取り組んでいく計画である。

実施体制としては、学校長を委員長とする学校評価委員会を組織し、各部署から委員を選出している。問題点の改善については学校全体で取り組んでいく。

点検中項目【9-44】自己点検・自己評価結果を公開しているか

学校教育法施行規則に基づき関係者に公開している。

名古屋情報専門学校

基準10 社会貢献

点検中項目【10-45】学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

地域で開催される有松絞り祭りや有松天満社秋季大祭では、学校の敷地を地元住民の方々の利便に供するとともに、祭り開催中はボランティア活動の一環として、学生が交通整理やイベントの補助役を行っている。

点検中項目【10-46】学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

上記項目10-45にある通り、有松絞り祭りでは、ボランティア活動として、学生が交通整理を行っているほか、有松駅駐輪場の自転車整理、道路掃除など地域貢献のためボランティア活動や介護施設で行われる夏祭りや秋祭り等のイベントスタッフとしてのボランティア活動についても支援している。